

別紙業務内容

1. 種苗放流事業

ハタハタ及びマツカワの魚類2種と、マナマコ、エゾボラ類及びエゾバイ(卵塊)の放流、またミズダコ及びヤナギダコの試験飼育を計画しています。

・ハタハタ

継続して大型種苗の放流に向けて事業を実施します。えりも町内へは1,400千尾と様似町(冬島地区)への175千尾を合わせ、計1,575千尾を35mmサイズで放流する予定です。また、令和8年度に向けての親魚及び受精卵の確保については、これまでと同様に取り組みます。

・マツカワ

北海道栽培漁業伊達センターの取水工事のため今年度から令和10年度までの4年間については、えりも以西海域への50mm種苗50万尾の放流に向けて事業を実施します。これまで通、事業は(公社)北海道栽培漁業振興公社からの委託を受け、75万尾を搬入し、中間育成を実施します。えりも町内の放流数については未定ですが、通常の半分程度の6万尾程度になる見通しです。

・エゾボラ類

前年に集められた卵塊を孵出まで継続して管理し、孵化した稚貝を放流するとともに、種苗の越冬飼育による大型種苗の生産に継続して取り組みます。また自然産卵を促す親貝の蓄養を継続して実施し、陸上での受精卵の確保に向けた取り組みを継続します。

・エゾバイ

母貝を蓄養して水槽内で産卵させ、孵出直前まで陸上で卵を管理し、卵塊の状態で漁場付近の海底に沈設して自然孵化放流を行います。

・ヤナギダコ及びミズダコ

新たな有用魚種候補として引き続き試験に取り組みます。

令和7年度種苗放流計画

魚種名	放流予定サイズ	放流予定時期	放流予定数
ハタハタ	35 mm	6 月 上旬～6 月中旬	1, 575, 000
マツカワ	50 mm	8 月 下旬～9 月中旬	60, 000
エゾボラ	10 mm	9 月中旬～10 月中旬	10, 000
エゾバイ	卵塊	6 月 下旬～7 月上旬	－
ヤナギダコ	30mm	7 月～8 月	－
ミズダコ	15mm	4 月～5 月	40, 000

2. 調査事業

1) ハタハタ生態調査

日高管内栽培漁業推進協議会の事業として、ハタハタ刺網漁期前から精密測定を行い、接岸時期予測を含め、基礎データの蓄積を行う予定です。

2) つぶ類の生態調査

えりも町において重要な水産資源の一つであるエゾボラの漁獲量は減少傾向で、大型個体は特に少なくなっており、天然卵の確保が難しくなっていることから、栽培水産試験場に協力し資料の収集に努めます。

4) たこ類の生態調査

赤潮以降低迷しているタコ資源の回復に向けた取り組みを進めていく上で必要となるミズダコ及びヤナギダコの生態は、そのほとんど不明であり、人工種苗の生産に必要な情報がない上に資源管理手法も確立されていないことから、栽培水産試験場に協力し資料の収集に努めます。

5) コンブ漁場の整備事業等に係る海藻類調査

えりも町において重要な水産資源であるミツイシコンブの増産に向けた各種事業において必要な調査を事業主体と連携して実施し、海底の状況や効果等の実態把握に努めます

6) 漁場環境モニタリング調査

令和3年度に発生した赤潮の影響によると思われる漁業被害の把握とその後の経過についての調査を継続して実施し、基礎データの蓄積に努める。